

2007年7月の東北地方の天候

【7月の特徴】

- ・低温
- ・中旬の寡照
- ・東北日本海側の少雨、東北太平洋側の多雨
- ・台風第4号による大雨

(1) 2007年7月の概況

この期間、太平洋高気圧の北への張り出しが平年より弱かった。東北地方は上空の寒気やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響で低温となり、中旬は東北太平洋側を中心に日照時間がかなり少なくなった。梅雨前線は平年より南の本州の南岸沿いに停滞することが多く、東北日本海側では梅雨前線の影響を受けにくく、少雨となった。

14～16日は、台風第4号が本州南岸沿いを通過したため、東北地方は太平洋側の南部を中心に記録的な大雨となり、各地で土砂災害や浸水害が発生した。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。月間日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬：前半は梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなったが、後半は高気圧におおむね晴れの日が多くなった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

中旬：14～16日は、台風第4号が本州南岸沿いを通過したため、東北地方は太平洋側の南部を中心に記録的な大雨となり、各地で土砂災害や浸水害が発生した。小名浜では15日に日降水量150.0ミリを観測し、7月の極値を更新した。その他の日は、梅雨前線や気圧の谷、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響で曇りや雨の日が多く、東北太平洋側を中心に低温となった。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。

下旬：はじめは梅雨前線の影響で曇りや雨となったが、中頃は高気圧におおむね晴れた。終わりはこの時期としては強い寒気が南下したため曇りや雨となり、低温となった。29日は大気の状態が不安定となったため、福島県では短時間に激しい雨があり、家屋の浸水や道路の冠水などの被害があった。

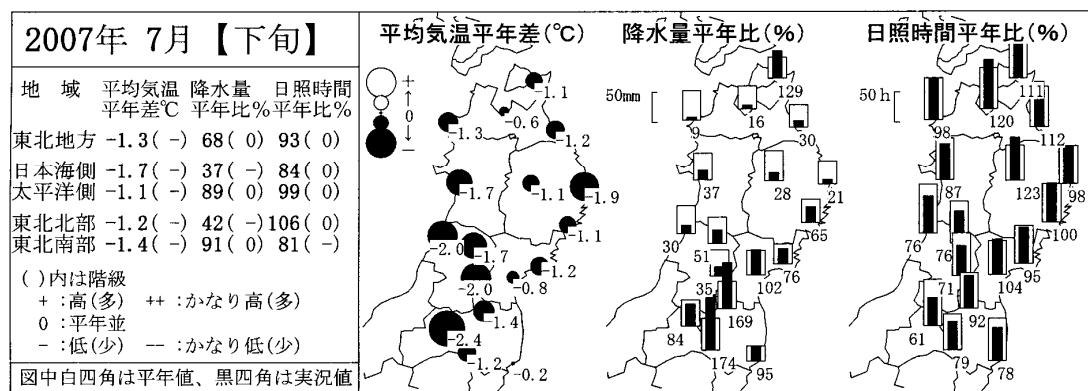
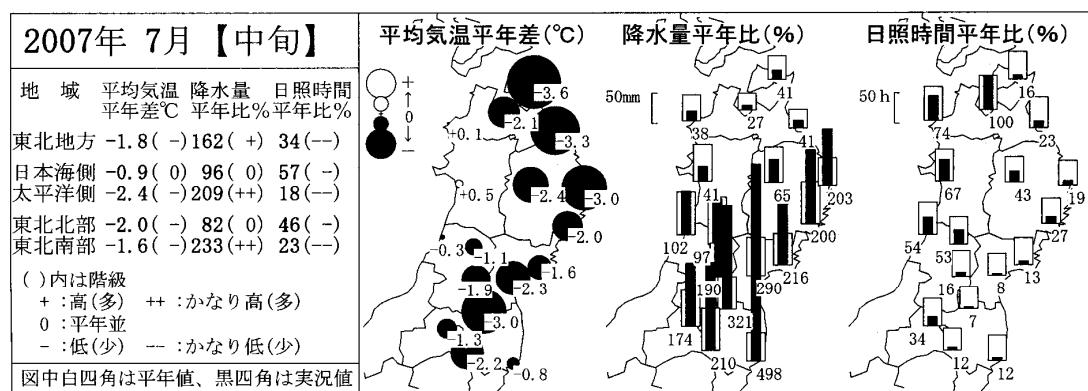
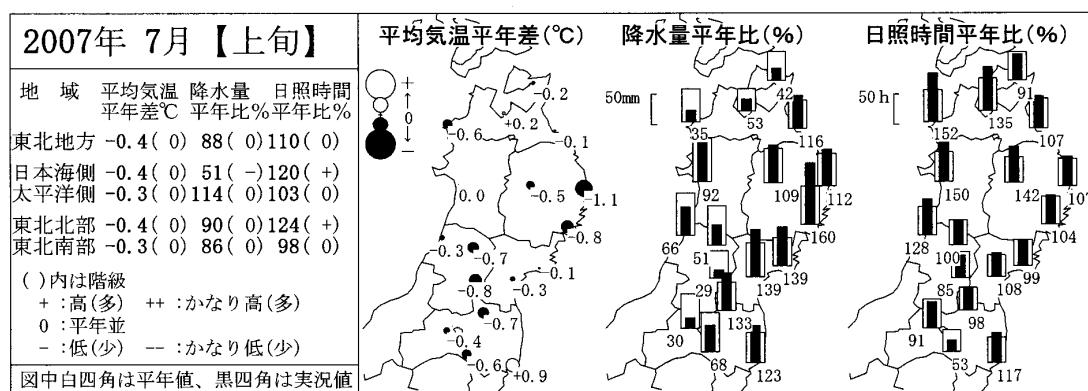
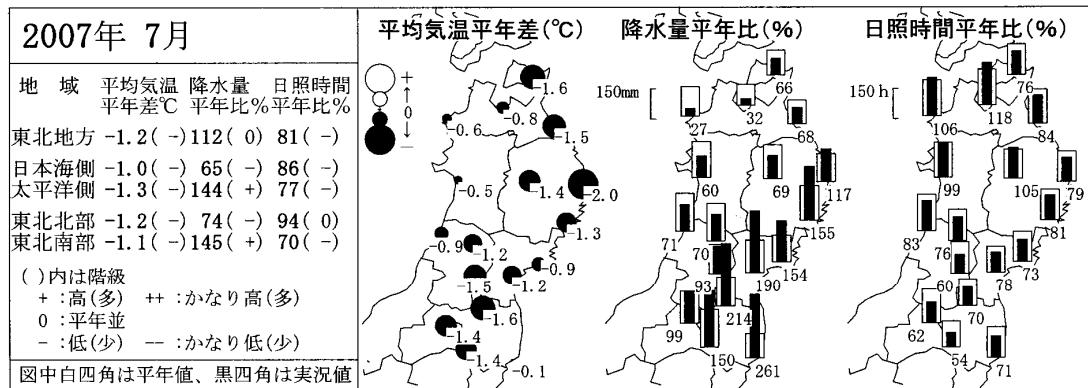
平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971～2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2007年7月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2007年7月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	20.3	(-0.8)	—	33.0	(32)	—	7	209.2	(118)	+
深 浦	20.7	(-0.6)	—	40.0	(27)	—	8	188.6	(106)	○
む つ	18.0	(-1.6)	—	81.5	(66)	—	8	115.1	(76)	—
八 戸	18.7	(-1.5)	—	80.0	(68)	○	8	141.2	(84)	—
秋 田	22.3	(-0.5)	○	107.5	(60)	—	8	169.4	(99)	○
盛 岡	20.4	(-1.4)	—	114.0	(69)	—	11	150.4	(105)	○
大 船 渡	19.7	(-1.3)	—	264.0	(155)	+	15	121.6	(81)	—
宮 古	18.0	(-2.0)	—	162.5	(117)	+	12	118.3	(79)	—
仙 台	20.9	(-1.2)	—	303.0	(190)	+*	17	99.3	(78)	—
石 卷	20.4	(-0.9)	—	201.5	(154)	+	17	107.7	(73)	—
山 形	21.7	(-1.5)	—	134.5	(93)	○	13	92.8	(60)	—*
新 庄	21.1	(-1.2)	—	130.5	(70)	—	10	117.3	(76)	—
酒 田	22.3	(-0.9)	—	132.0	(71)	—	10	148.6	(83)	—
福 島	21.9	(-1.6)	—	309.5	(214)	+*	19	93.5	(70)	—
若 松	22.0	(-1.4)	—	159.0	(99)	○	18	104.1	(62)	—*
白 河	20.6	(-1.4)	—	280.5	(150)	+	20	69.5	(54)	—
小 名 浜	21.6	(-0.1)	○	315.0	(261)	+*	15	108.4	(71)	—

(注) 1. 年平均値は1971~2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。

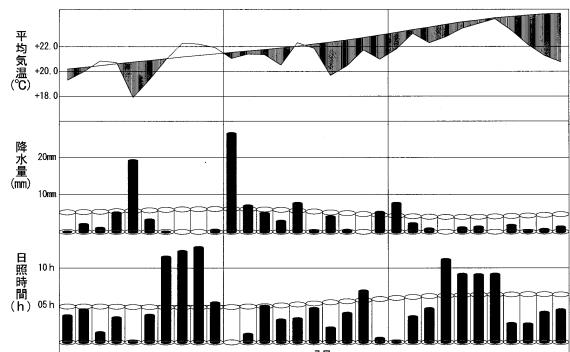
また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

と表現できる。

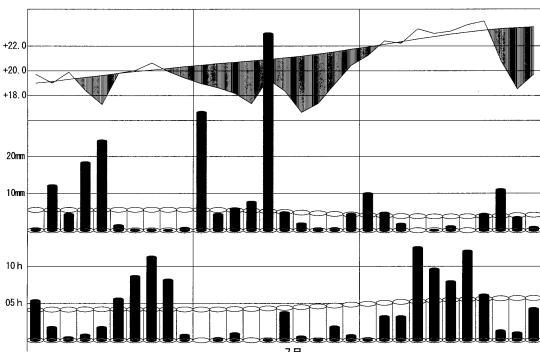
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値（準完全値）は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値（資料不足値）については、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2007年7月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の月別観測値と月別平均年降水量の地域平均（気温：実線と点線、降水量：黒い円柱と白抜き円柱）

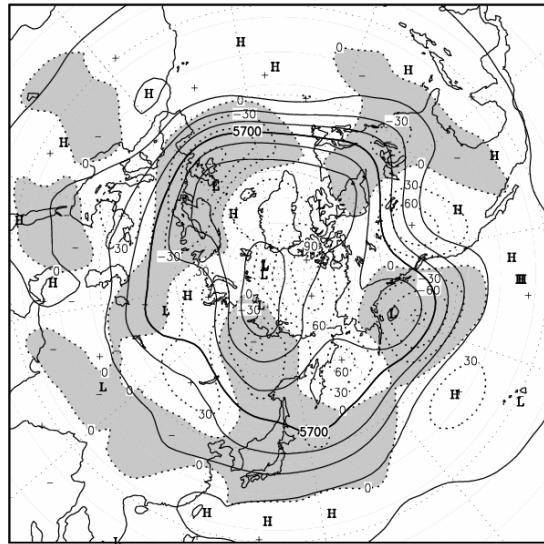
(6) 2007年7月の極値・順位の更新 (月平均気温、月降水量、月間日照時間の3位まで。)

なし

(7) 2007年7月の循環場の特徴

500hPa 高度では、日本付近は東西に広く負偏差となっている。これは、太平洋高気圧の北への張り出しが弱かったことと、中旬に台風第4号が本州南岸を東進したことに対応している。

このため、東北地方は寒気の影響を受けやすく低温となった。また、梅雨前線が平年に比べ南に位置したため、東北地方の梅雨明けは平年より遅れた。



2007年7月の平均500hPa高度

実線は等高度線：60m毎、点線は偏差：30m毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）

(8) 各地の梅雨明け（速報値）

■ 平成19年の梅雨明け					
地方	平成19年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6月21日ごろ	2日早い	1日遅い	6月23日ごろ	6月20日ごろ
奄美	6月28日ごろ	同じ	6日遅い	6月28日ごろ	6月22日ごろ
九州南部	7月18日ごろ	5日遅い	7日早い	7月13日ごろ	7月25日ごろ
九州北部	7月23日ごろ	5日遅い	3日早い	7月18日ごろ	7月26日ごろ
四国	7月23日ごろ	6日遅い	3日早い	7月17日ごろ	7月26日ごろ
中国	7月23日ごろ	3日遅い	3日早い	7月20日ごろ	7月26日ごろ
近畿	7月24日ごろ	5日遅い	3日早い	7月19日ごろ	7月27日ごろ
東海	7月27日ごろ	7日遅い	1日遅い	7月20日ごろ	7月26日ごろ
関東甲信	8月1日ごろ	12日遅い	2日遅い	7月20日ごろ	7月30日ごろ
北陸	8月1日ごろ	10日遅い	2日遅い	7月22日ごろ	7月30日ごろ
東北南部	8月1日ごろ	9日遅い	1日早い	7月23日ごろ	8月2日ごろ
東北北部	8月1日ごろ	5日遅い	1日早い	7月27日ごろ	8月2日ごろ